

5月、風薫る季節

風薫る季節となりました。若草色の新緑が美しく輝き、生徒たちの元気な挨拶もひとときわ爽やかに感じます。

新しい年度がスタートして約1か月が経ちました。授業、部活動、清掃の時間などで意欲的に取り組んでいる生徒の姿がたくさん見られます。3年生は20日(月)から修学旅行、2年生は21日(火)大阪での校外学習、1年生は19日(日)から広島県福山での合宿訓練に向けて、実行委員や代議員を中心に意欲的に取り組んでいます。この校外学習によって各学年の「チーム力」が高まるとともに、一人一人にとって、これからの生き方につながるすばらしい経験となると信じています。

さて、本年度の学校教育目標を

「**活力ある新宮中へ 志高く、夢に向かって挑戦を続ける生徒、
一人一人を大切に作る学校**」とし、

下のおり目標を設定し、教職員一丸となって教育に取り組んでいきます。

(1) めざす生徒像

自主(知) 自らすすんで学び続け、言動に責任を持つ生徒

友愛(徳) 自分を大切にし、友達を思いやり、助け合い、協力し合う生徒

錬磨(体) 心身を鍛え、豊かでたくましい心を養い、切磋琢磨する生徒

(2) めざす教師像

・教育愛 — 人権尊重の精神に徹し、生徒愛と地域愛に富み、生徒の目線で計画的によく練られた授業を実践する心豊かな教師

・理性 — 人間性豊かで、信頼される人格の高い教師

・洞察力 — 視野が広く、物事の本質を見極め、生徒が見える教師

・知性 — 機知に富み、感性豊かに課題に挑戦し、協力し合う教師

・指導力 — 研修に努め、授業改善に努める教師

(3) めざす学校像

魅力のある学校 — 夢が持て、わかる、できる、すべての生徒が自己実現を果たすことができる。

秩序のある学校 — 報告・連絡・相談・確認が徹底している、自己に厳しく、規範意識が高く、規律が守られている。

潤いのある学校 — 精神的ゆとりが持て、接遇がよく、気配り、目配りがよく行き届いている。

褒められた子ほどタフ～「叱られる」より、へこたれない力高く～

これは、神戸新聞朝刊の記事の見出しです。失敗を恐れて挑戦をしない子どもや打たれ弱い若者の増加が懸念されるなか、これからの時代、様々な人とかかわりながら、何事にも意欲的に取り組む姿勢をもち、多少の困難や逆境があってもへこたれず前向きに生きていける力を身につけた大人を育てることが大切です。また、こうした力の源になるのは、自己の存在や価値を肯定的に評価できる自己肯定感だと考えられます。

そこで国立青少年教育振興機構が「意欲」「コミュニケーション力」「自己肯定感」「へこたれない力」が社会を生き抜くために必要な資質・能力と位置づけ、インターネットを通じて20代から60代の男女計5000人に現状と子供時代の体験などをアンケート調査しました。

その結果、①親や先生、近所の人から「褒められた経験」が多かった人は、社会を生き抜く資質・能力が高い。そのうち、「厳しく叱られた経験」が多かった人は、より社会を生き抜く資質・能力が高い。

②「手伝いや家族行事」（家庭）、「友だちとの外遊び」（地域）、「委員会活動・部活動」（学校）を多くしていた人ほど、社会を生き抜く資質・能力は高い。という傾向が見られました。

子どもが「人の不幸の上に自分の幸せを築こうとする行動」「命を大切にしない行動」「同じことを3回注意されても改めようとしない態度」等をとれば、厳しく叱ることは大切です。それとともに、大切なことは子どもががんばっている言動に対して褒めることです。褒めることによって、子どもが自分に自信を持ち、「もっとできるようになりたい！もっと難しいことに挑戦したい！」と積極的になります。逆に、誰にも褒められず叱られてばかりの子どもは、少しの失敗ですぐに諦めたり、萎縮してしまい、いつも自分に自信をもてずに引っ込み思案になってしまいます。

私たち大人は、褒めることを大切にして、子どもと真剣に向き合っていきましょう。さて、5月は、季節の変わり目を通して、新しい生活に慣れてくると同時に五月病という、特異な社会現象も懸念されますので、子どもの心身の健康状態をしっかりと把握してください。

気になることがございましたら、遠慮なく学校にご連絡ください。そして、元気に学校生活が送れますようご指導のほどよろしくお願いいたします。

校長 堀 富雄

